がれきを砕く「小割り」という作業は比較的単純なため遠隔作業が可能だ

三同建設にとって、現場に建てたプレハブ内から操作する現状の仕組みは導入の第1段階だ。第2段階として来年にも操縦席を大阪市にある本社に移し工事現場と衛星通信でつなげる。K-DIVEに対応した重機を追加購入し、離れた2つの現場の重機を本社の1つの操縦席から動かす。

内勤者50人程度のうち15人程度が運用を担当すると想定している。これまで重機の操縦は男性が担うことが多かったが、女性や身体障害者による運用も視野に入れている。

遠隔重機導入の1つ目の狙いは現場で重機を操作する人員を減らすことだ。重機を操縦できる現場作業員は高齢化が進む。三同建設のグループ会社でも若手の新規採用ができていない状況だ。

三同建設は操作が比較的単純な作業を内勤部門の社員が本社業務の一つとして取り組むようにする。がれきを砕いたり、トラックに移したりする作業が対象になる。現場で稼働する重機の約半分は遠隔操作に置き換え可能だと見込む。現場作業員は建物の取り壊しといった熟練した技術が必要な作業に集中できる。